

# いぼのいろいろ

俗に「いぼ」とは、小さな皮膚の盛り上がりが多く、色は皮膚色ないし淡褐色で、数は1個のこともあれば無数にできることもあります。ちなみに国語辞典では、いぼ(疣、贅)の項目には皮膚にできる小さな突起物と定義されています。患者さんの言われるいぼを診察しますと、いろいろな病名があります。今回のポスターではいぼと呼ばれているもののうち、代表的なものを子供と老人のいぼに分けて写真で見させていただきます。このほかにもいぼの形をしたさまざまな皮膚病がありますので、気になるいぼがあれば、気軽に皮膚科専門医に御相談下さい。

## 子どもがいぼ



だれもがいぼと呼ぶものです。原因がいぼウイルスですのうつります。

(正式名称:尋常性疣贅)



うおの目とよく間違われますが、足の裏のいぼです。左図と同じくいぼウイルスによるものです。

(正式名称:足底疣贅)



俗に水いぼと言われています。やはりウイルス性のものでしたのでプールでの伝染がよくみられます。何もしなくても治りますが、ばいきんがついたり、大きくなったものは取ったほうがよいでしょう。

(正式名称:伝染性軟属腫)



出生時、頭では脱毛部としてみられ、のちにはいぼ状になります。腫瘍化することがありますので手術したほうがよいでしょう。

(正式名称:類器官母斑)



## 老人のいぼ



よく首筋に多発してみられます。見た目に気になりますが、加齢によるもので、うつることはありませんので放置してもかまいません。

(正式名称:スキントッグ)



俗に長生きぼくろといわれています。良性のものでうつることはありません。

(正式名称:老人性疣贅)



地獄ぼくろともいわれます。長年日光にあたった結果おこる皮膚癌のはじまりです。手術が必要です。

(正式名称:日光角化症)



顔面によく見られます。黒い色をしていて、ぼくろと間違われますが、手術が必要です。

(正式名称:基底細胞上皮腫)



平成2年11月12日は、皮膚の日です